

1. 開局してまもなく少年が訪ねてきた。

2. 中越地震とエフエム雪国

①発生直後の放送

②リスナーの声

- ・すぐに役に立ったもの
- ・癒し効果のある音楽
- ・時刻告知

③さまざまな連携

- ・他のコミュニティーエフエム局
- ・県域局
- ・衛星デジタルラジオ局

④支援の要請

⑤臨時災害エフエム局の開設

- ・エフエム雪国
- ・エフエムながおか

⑥普段の備え

コミュニティーFMの存在意義

— 地域に頼られるメディアをめざして

エフエム雪国 取締役放送局長 山本 安幸

エフエム雪国は一九九八年二月一日に全国八十六番目の局として産声をあげた。

振り返ると私の心を大きく動かした出来事がよみがえる。開局まもない三月十三日、公立高校入試合格発表日だった。

合格者の喜びの声を放送中の夕方、ある少年が局を訪ねて来た。

「エフエム雪国は不公平です」「どうして」「入試は合格者だけではないよ」「君は?」「僕は入試に失敗しました。僕にもマイクの機会をください」「何を伝えるの」「失敗した仲間にくじけずに頑張れのメッセージを送りたい。そして三年間共に過ごした友達にありがとうを言いたいのです」

失敗した人に自ら語らせていいものだろうか、一瞬複雑な思いが交錯した。しかし、地域ラジオだからできる一つの方向ではないかと思いい、スタジオに案内した。彼は短い言葉で心情

を語り、仲間を温かく励ました。見送った彼の背中は少し淋しそうだったが、私にはとてもさわやかで、自分をきちんと持った少年に映った。

次の日のこと、こんなハガキが届いた。

「十三日夕方の放送で、入試に失敗したにも拘わらず、多くの友達にメッセージを送ってくれた彼の言葉を聴き胸が熱くなりました。大人だつてあんな素晴らしいメッセージは送れません。とても素直で気持ちの優しい友達思いの少年なんだと思いました。人間として最も大切な思いやりの心を持つている彼、これからの人生もきっと素晴らしいものになることを信じます。いつまでもこの心を持ち続けることを願ってやみません」

失敗した人が自ら身近な局を訪ね、そのメッセージが地域に波紋を呼ぶ。コミュニティー放送局ならではの体験をした。

地域の“宝”を生かす

エフエム雪国は、南魚四町の合併をめざして八一年に創設された雪国青年会議所のOB・現役が中心となり開局、複数の自治体(四町)に周波数が割り当てられた全国初のケースだった。

当時、南魚四町、とりわけスキー産業が地域経済の死活を握っていた湯沢・塩沢地区は、五、六年前から入込数が減少を続け、九七年度は八百万人を割り込み、長引く不況と共に地元は強い危機感を抱いていた。こうした状況の中でエフエム雪国はエリア内に三十のスキー場を抱える地域おこしのツールとして誕生した。そして広域観光の視点から地元貢献する道はないものか試行錯誤の中、首都圏の玄関口としての立地を生かし、一人でも多くのスキーヤー、ボーダーを誘致し、関越トンネルの渋滞を解消、来

訪者に事故なく楽しい思い出を作ってもらおうキャンペーン「雪の達人養成ラジオ」を制作した。

現在、コミュニティ放送局は全国で百七十九局あり、半分が第三セクターであるのに対し、当社は純民間一〇〇%の企業。広告収入がすべてのラジオ局であり、大きなキャンペーン実施の制作費の手当てが必要だったが、雪道タイヤ装着向上が課題の旧建設省が救世主となった。

その効果は経済効果を含め非常に大きく、首都圏からの来訪スキーヤーに対する「冬装備は常識」の世論形成がねらいで、つまり冬のリゾートの楽しい思い出を不意にしないため、雪道ドライブテクニクを啓蒙するキャンペーンでもあった。雪道の運転には初心者もエキスパートもなく雪装備の必要性を雪道ドライブテクニク編にまとめ、合わせてスキーヤー、スノーボーダーに役立つ「スキー場ガイド」やスキー関連耳寄り情報を盛り込み、地域のイメージアップ活性化につなげた。

コミュニティ放送局は在京キー局の意向に影響される県域局には出来ない「ネットワークを自在に結ぶ」利点がある。この広域ネットワークを他局に先駆けて展開した。東京九局、千葉三局、埼玉二局、神奈川八局、群馬三局、茨城一局の二十六局プラス県内は当社を入れて四局の計三十局ネットだった。そして、このキャンペーンに注目したBSN新潟放送との業務提携も生まれ、ラジオ番組での相互乗り入れや南魚地

域の映像取材が始まった。コミュニティラジオ業界では初めての試みであり、単体では出力十〜二十ワットと小さいが、他局や県域AM・FM局とネットを組むことで強力なラジオメディアに変身する可能性を持つ。

以後、これをベースにスキー場ゲレンデからのネット放送「こちら、雪国ふれあい放送局」、夏には標高千メートルの高山植物園から発信する「こちら湯沢、雲の上の放送局」へと展開していった。これらはスポンサーニーズに合わせた自在なエリア交流ネットワークを組むことで広域連帯セールスが可能となった例である。

何故可能となるのか。コミュニティラジオ局の基盤である地域には「固有の宝物」が存在する。例えばエフエム雪国のある新潟県南魚沼市・郡には、

- イ) 首都圏から新幹線で一時間十五分、高速道路では二時間の近い立地
- ロ) 首都圏から一時間ちょっとで積雪メートルを超える雪国は世界でも稀な地域
- ハ) 経済的には冬のスキー観光が中心で、十二月下旬から三月にかけて七百万人が訪れる観光立地

ニ) 日本一のコシヒカリ、地酒もおいしいし温泉もたくさんある――

つまり、スキー産業を構成しているスキー場、ホテル、民宿、土産屋などは首都圏からの来訪者がお客さんであり、この観光客に向けて必要

な情報を直接発信したいというニーズがあったのである。

このようなメディアとしてのスケールアップを図りながら地域サービスも行った。夜遅い時間での命にかかわる緊急献血の呼びかけ、誤って間違った切符を手にした人探しなど、地域の人に頼りにされるメディアをめざしている。何か困ったことがあったらまずエフエム雪国に相談してみよう、ハガキを書いてみよう、何かうれしいことがあったらエフエム雪国に電話してみんなに聞いてもらいたい。そんなふうに地域の人たちが思える放送局でありたいと思う。その意味で最近届いたお便りはとても印象に残った。

「新潟市に単身赴任の三年間、新潟と六日町を週末・週始めに通いました。土曜日に帰ってくると『エフエム雪国』の電波が入る小出まで辿り着くと『ああ、魚沼に帰ってきたなあ』と思い、月曜日に出かけて行く時は、電波が届かなくなると、残してきた家族を案じるという繰返しでした。『エフエム雪国』の電波は自分のふるさとそのものでした。(若ちゃん、四十代、男)」

地震が残した教訓

さて、コミュニティ放送局と新潟県中越地震について触れたい。

あの日、全員で営業会議をしていた時に地震が起きた。したがってスタッフの招集は不要であり、初動対応は迅速にできた。コミュニティ放送局の土曜日は一人体制のところが多く、スタッフに連絡し局に来るまでの時間がかかり、またスタッフの家が被災やケガをしたり道路が破壊されていると来られなくなる。

コミュニティ放送局は災害に強いと言われている。災害に襲われた地域へのきめ細かい放送ができるからという理由である。しかし、被害エリアの中にあつてラジオ局も例外ではなく、放送が可能となるのは局舎や職員とその家族に被災がない場合に限られる。局舎や送信所が破壊されると緊急放送をどうするかという大問題が発生する。つまり地域メディアにとつては最も辛い時に放送を続けられるのか、その真価が問われることになる。

二十三日午後五時五十六分、停電と同時にスタジオと送信機への自家発電機用配線を接続し備えの燃料をセット。送信所が心配だったが、自家発電に切り替わっており、建物は無事のよう放送は流れていた。

強い揺れによろけながらも壁伝いにスタジオに入り、即座に緊急放送に切り替え、マイクの前に座った。夕食時であり火の取り扱いや、停電により信号機なしで通行している車への徐行運転、余震に備えた注意喚起を繰り返し呼び掛けた。

時間経過の中で大変に困ったことが起きた。

地域はどうなっているのかまったく情報が入ってこないのである。停電とはどんな状況かを認識した。テレビが見られない、真っ暗闇、固定電話はもちろん携帯電話も通じない。住民は取るものもとりにあえずほとんど外に出ている。そんな住民に向かって情報提供を呼び掛けても無理なのである。

困難だが自力取材しかないと考え、電池で稼動する携帯用中継機ラジオマイクを持たせ、一人を旧六日町役場に派遣した。役場も停電し自家発電も機能していない。役場前の対策本部に向かい、三、四台の車がヘッドランプを照らしその明かりを頼りに職員・警察・消防が打ち合わせをしている様子をレポート。女子アナ二人も塩沢町・旧大和町役場に向かわせた。

そして、午後九時三分から取材を終えたアナ三人と山本を交え、スタジオで情報発信した。同時に停電が長引くのに備え、灯油の給油ポンプを使って車のガソリンを自家発電予備燃料として準備した。

地震発生の翌日午後二時過ぎ、次のようなFAXが入った。

「私は塩沢町に住んでいるのですが、私より長岡にいる姉が心配です。連絡はつながるのですが、姉の方はまだライフラインが復旧せず情報が全くないそうです。こちらから教えてあげたいので長岡についてのニュースを教えてください」

さい」

これに対し、FMながおかと電話をつないで長岡市内の被害状況を放送で伝え、このように呼び掛けた。「さらに詳しい状況を知りたければ、お姉さんが直接FMながおかにたずねてください」。FMながおかの電話番号を伝え、エフエム雪国からFMながおかに連絡する旨を付け加えた。コミュニティ放送局が近隣同士でつながっていればこのような情報のリレーが可能であることを実証した。

二十五日からは、近隣で被害の大きかった十日町市の臨時災害FM局開設の折衝を総務省信越総合通信局や十日町市関係者と重ね、機材の心配から人員派遣に至るまで強力に支援した。十日町市災害FM局は、既存の局が五十ワットの増力でそっくり対応した長岡市災害FM(FMながおか)と違い、独自の周波数で放送を行った当社の編成は二十五日にはレギュラー番組に戻し、通常番組の中で十日町市災害FM局が発信した情報や周辺の被害エリアの様子を伝えた。

また、繰り返し十日町市災害FM局の周波数を告知し「十日町市の知人、友人に教えてあげて」と案内した。

このように今度の臨時災害放送局は、現在運用中のコミュニティFM局がそのまま臨時災害FM局となったり、経験のあるスタッフや通常機材を貸与したりした。この利点としては、既存のコミュニティFMを直ちに利用できる

ため運用開始が早いことで、全国に多くあるコミュニティFM局の今後の活用事例として注目を集めた。しかしながら早急な立ち上げには、災害時の多忙な市町村との対応が円滑になるよう各自自治体が最小限の機材を平時から用意したり、ノウハウのある各地のコミュニティ放送局との連携などをルール化し、運用をシステム化する必要がある。

災害FM局に七人のスタッフ中三人を投下し、手薄になったレギュラー番組の手当てのため関東圏や近県局にパーソナリティー応援を要請、沼田エフエム、おたコミュニティ（群馬）、湘南平塚コミュニティ（神奈川県）、ながのコミュニティ放送（長野）から延べ十四名が支援してくれた。

また、地震で大きな被害を受けた新潟県中越地方のコミュニティ放送局などを結び、被災地の今の姿を伝え、何ができるのかを考える災害特別番組を一週間後、一か月後、二か月後に東京FMグループの衛星放送「ミュージックバード」経由で全国にネットした。

少数で災害FM支援、地元への情報発信、全国放送——と綱渡りだったが、当該局が災害放送を続けられるほど、人員・機材・通常セールの制約に風評被害が輪をかけた体力が消耗していく。一般人が被災すれば国や自治体の補助が受けられるが、放送に対してはそのようなシステムは作られていない。特に今回のFM

ながおかとエフエム雪国のような純民間局の場合にはなおさらである。緊急放送に専念できる最低限の補償を制度化する必要を痛感した。

復旧に向け何ができるか

新潟県中越地震からあつというまに七か月が過ぎた。被災地では地震と十九年ぶりの豪雪が重なり、痛んだ地盤に大量の雪解け水が流れ込み、被害が拡大している。全国有数の米どころだが、農道、水路、棚田の崩壊など、雪解けと共に新たな被害が起きている。

いま被災地では本格的な復旧作業が進んでいるが、経済的な負担の大きさが復旧を阻んでいる。地震で破損した家を修理して住み続けようと思っても補修のための補助金は出ない。家を全部壊さなければ、整地費や解体費が出ない仕組みになっているからだ。これでは年金暮らしのお年寄りには家屋の修復は困難になる。

国は「私有財産の形成（家屋の建築・修理）には税金の投下はできない」という立場を変えていない。しかし地震で揺れた家を元通りに直して暮らすことを、私有財産の形成の名の下に切り捨ててよいのだろうか。

私が住む長岡市高町団地は、山の頂上部を削ったり、崖の部分に盛り土をして造成された場所。そのため今回の地震により大きな被害を受けた。私の家は地盤そのものが傾き、家の真下

に大きな亀裂が発生した。県の住宅再建補助制度を利用するには三月中工事完了が条件だったので、急ぎ工事を始めたが、家屋の修理だけで一千万円以上かかった。阪神淡路大震災を体験した兵庫県では、年間五千円の会費を払うと住宅の再建・補修費用を六百万円まで支給する共済制度を始めた。こうした被災地の実情に見合った知恵システム作りを行政には切望する。そして新聞に携わる皆さんにぜひお願いしたいことがある。それは被災地の現状を継続的に報道し、合わせて被災者にとつてあまりにも厳しく貧しい被災者救助の仕組みを、ぜひ取り上げて欲しい。

五月上旬、新潟県内のコミュニティFM九局は、県知事を訪ね、災害時などの情報通信にラジオを積極的に活用することを要望。中越地震や7・13水害を踏まえ県が見直し作業を進める「県地域防災計画」に組み入れるよう求めた。また、次の災害に備え放送機材や人員の協力的制作を進めると共に家庭で眠っている中古ラジオ（スピーカー付きが望ましい）の提供を呼びかけている。

エフエム雪国は、地震により通常売り上げの三割近い減収になった。震災報道を続けながら、売り上げ回復に向けて、全スタッフが営業マンとなつて今日も元気に走り回っている。

（やまもと・やすゆき）